

松山櫛便り

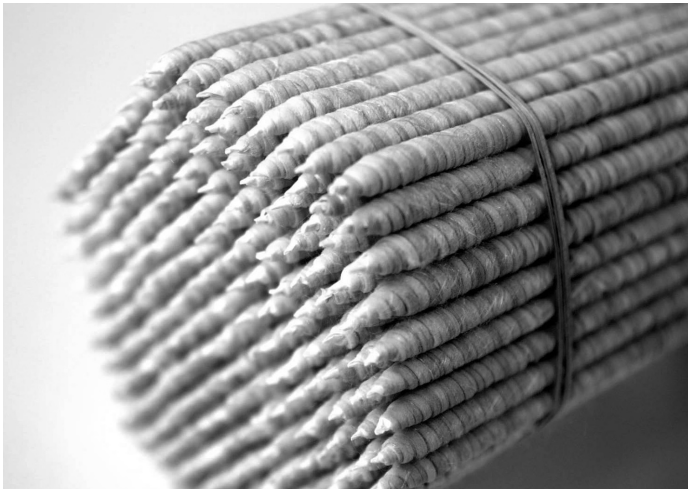
第26号

購読
無料

1日・15日発行・櫛に関する情報求ム!
福岡県久留米市田主丸町で活動中!
編集・発行 松山櫛復活委員会
幹事・矢野真由美

耳納山の片隅で失われてしまった櫛紅葉の景観を復活させることを目的に、櫛の素人がまったりとその様子を伝えていく会報です。

ブログ公開中「松山櫛復活奮闘日記」 <http://blog.goo.ne.jp/elster/>
連絡先 e-mail : elster@mail.goo.ne.jp ホームページ「松山櫛復活委員会」 近日公開予定



徳田さんの巻いた芯。全て先端が美しい形で揃っている。

「芯巻き作業は、たくさんの芯を巻くから一本一本がおざなりに巻いてしまいがちだ。だが、ろうそく職人は一本一本を相手に丁寧に蠟をかけて、ろうそくを作るんだから、芯巻きも、きちんと一本一本を大切に巻かなくては、良いろうそくは作れない。」
内職といえども、一本ずつ命を吹きかけるように大切な芯は巻かれてきました。しかし、現在出回っている小さなサイズの芯には、こういった作り手の心が見え

一本一本を丁寧に

和ろうそく芯物語 その6 品質が低下した芯の背景にあったものは…

ます。

「芯巻き作業は、たくさんの芯を巻くから一本一本がおざなりに巻いてしまいがちだ。だが、ろうそく職人は一本一本を相手に丁寧に蠟をかけて、ろうそくを作るんだから、芯巻きも、きちんと一本一本を大切に巻かなくては、良いろうそくは作れない。」

前号までのあらすじ

日本人が明るさと美しさにこだわってきた和ろうそくの炎。その秘密は「芯」にありました。朝倉市は

もともと芯巻きの本場で、今も現役で和ろうそくの芯を巻いている職人さんがいます。でも、いつのまにか芯の世界に異変が起きていました。

「今は芯のほとんどは海外で作られていますよ。小さなサイズばかりじゃない。大きな芯も最近では明らかに海外製がほとんどです。」
耳を疑いました。和ろうそくを(たぶん知らない)外国人が和ろうそくの芯を巻いているとは!

さらなる悪循環へ

なぜ、海外で品質の悪い芯が作られているのか。答えは簡単。コストダウンのためです。
現在出回っている小さなサイズの芯巻きの賃金を推定で換算すると、一本につき、日本円にして一円以下の金額だそうです。徳田さんの普段の作業スピードから計算すると、一日8時間働いても、たったの200円以下。これじゃ、やらない方がましですね。どおりで国内で小さなサイズの芯の生産が消えてしまったわけでは

できません。この小さなサイズの芯は、一体誰が作っているのか。私は関係先の数カ所に尋ねてみました。

誰が巻いた芯なのか

がはつきりとわかってきました。

質の悪い芯のおかげで、全国各地の数少ないろうそく職人は、芯の悪さをカバーするために、本来しなくてもいい苦勞をしているそうです。私は海外製のせじやなく、徳田さんの芯で作った本来の和ろうそくを見てみたくなりました。
芯は全国から芯の業者に集まってくるから、誰の芯が、どのろうそく屋に卸されているのかは不明です。もちろん徳田さんの巻いた芯を、どのろうそく職人が使うのかも全くわかりません。

徳田さんの父親が亡くなった時、和ろうそくを灯したそうですが、それが本人の芯だったのかどうかは到底わかりませんでした。

私は、徳田さんをお願いして特別に小さなサイズの芯を少しばかり作ってもらい、櫛蠟100%の最高品質にこだわる近江手作り和ろうそく職人、「大輿」の大西さんに渡しました。

そして一週間ほど経つと、私の目の前には、完成したばかりの本物の和ろうそくがありました。

続きは次号にて

松山櫛の
状況は…

江戸時代に田主丸町森部で発見された櫛の優秀な品種「松山櫛」。朝倉市に一ヶ所だけ残っていた松山櫛を、故郷である田主丸に復活させるため、接ぎ木を行い一本だけ活着に成功しました。今のところ、なんとか育てています。

※本会報を許可なく複製・転載すること、または部分的にもコピーすることを禁じます。